

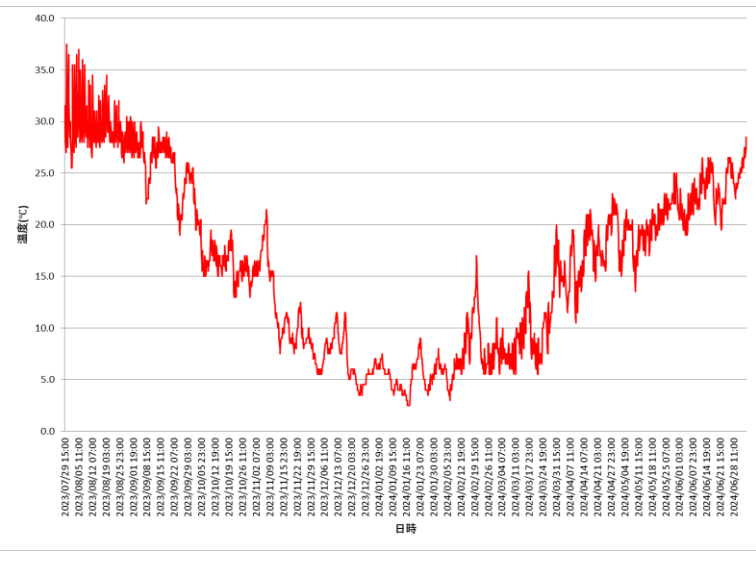
加賀電子本社 屋上ビオトープ 調査・管理報告書

活動日	2024年10月21日	天候	晴れ	活動時間	10:00～12:30
作業者	久保田 潤一			報告者	久保田 潤一
目的	生物調査、ビオトープ管理				
内容					
【作業内容】 ・ビオトープの写真撮影 ・水深の確認 ・生物調査 ・外来種のチェック ・池内の外来植物の駆除 ・池内の繁茂しすぎた植物の草刈り ・水温計(温度ロガーの回収) 【生物調査の詳細】 ・ビオトープ創出時に導入した生物(ミゾコウジュ)も含め、生息・生育状況の調査を実施。 ・導入したミゾコウジュは、冬に向けてロゼットの形状になっていた。 ・トチカガミがランナーを伸ばし、池全体を、完全に覆いつくしていた。 ・アジイトンボの幼虫(ヤゴ)を確認した。 ・シオカラトンボの幼虫(ヤゴ)を多数確認した。齢数がまちまちであった。 ・ギンヤンマの幼虫(ヤゴ)を確認した。 ・池のまわりにイヌタデが繁茂して開花していた。 ・ビオトープそばの園芸植物を食草としてセスジスズメの幼虫が育っていた。本種は広食性で、ブドウ科、サトイモ科、ツリフネソウ科など様々な植物を食べる。 【その他】 ・水深が浅いエリアでは、抽水植物の繁茂によって水面が見えにくい状態となっていた。そのため、根際部分から刈り取る管理作業を行った。 ・トチカガミが繁茂しすぎて水面がまったく見えない状態となっていたため、大幅な間引きを行った。 ・イヌタデは外来種ではないが、景観を整えるために除草した。 ・昨年の7月に設置した水温計(温度ロガー)を回収した。2023年7月29日から2024年7月4日までのデータを取得することができた。 最高気温 2023年7月30日の15:00 37.5℃ 最低気温 2024年1月17日の7:00～1月18日の7:00 2.5℃					

	No. <u>1</u> 撮影日：2024年10月21日 撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ 解説 管理作業前。 ビオトープ全体に植物が繁茂し、水面が全く見えない状態。
	No. <u>2</u> 撮影日：2024年10月21日 撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ 解説 管理作業後。 抽水植物は一部を除いて刈り取りを行った。トチカガミも大幅に間引きを行った結果、水面が見えるようになり、景観も改善した。
	No. <u>3</u> 撮影日：2024年10月21日 撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ 解説 導入したミゾコウジュは、冬に向けてロゼットの形状になっていた。確定した。

	No. <u>4</u> 撮影日：2024年10月21日 撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ 解説 池のまわりにイヌタデが繁茂して開花していた。外来種ではないが、景観を整えるために除草した。
	No. <u>5</u> 撮影日：2024年10月21日 撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ 解説 シオカラトンボの幼虫（ヤゴ）。水深が浅いエリアの泥の中で多数見られた。
	No. <u>6</u> 撮影日：2024年10月21日 撮影場所：加賀電子屋上ビオトープ 解説 シオカラトンボの幼虫は、齢数がまちまちであった（すべてシオカラトンボ）。

	No. <u>7</u> 撮影日: 2024年10月21日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 ギンヤンマのヤゴ。
	No. <u>8</u> 撮影日: 2024年10月21日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 アジアイトトンボのヤゴ。
	No. <u>9</u> 撮影日: 2024年10月21日 撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ 解説 セスジスズメの幼虫。本種は広食性で、ブドウ科、サトイモ科、ツリフネソウ科など様々な植物を食べる。

	No. 10 撮影日 : 2024年10月21日 撮影場所 : 加賀電子屋上ビオトープ 解説 シャジクモも継続的に生育していたが、秋になって枯れ始めていた。
	No. 11 撮影日 : 撮影場所 : 解説 ほぼ1年間の水温データ
	No. 12 撮影日 : 撮影場所 : 解説

加賀電子本社屋上ビオトープ 確認生物リスト

※今回調査での確認種に青色をつけています

分類	種名	経緯 ※別表1	希少性 ※別表2		外来種	備考	確認記録 2023年度			確認記録 2024年度		
			環境省	東京都 区部			7/10	7/29	10/10	5/29	7/27	10/21
	キマダラカメムシ				○						○	
昆虫類	ヒメアメンボ	自然飛来					○	○				
	ミズギワカメムシ科の一種	自然飛来						○				
	ホルバートケシカタビロアメンボ	自然飛来									○	
	アジアイトトンボ	自然飛来				成虫、幼虫を確認			○	○	○	○
	ギンヤンマ	自然飛来				幼虫を確認						○
	シオカラトンボ	自然飛来				幼虫を確認	○			○	○	○
	オオシオカラトンボ	自然飛来					○	○				
	ショウジョウトンボ	自然飛来				幼虫を確認		○	○	○		
	ウスバキトンボ	自然飛来						○				
	コカゲロウ属の一種	自然飛来					○	○				
	セスジズメ	自然飛来				幼虫を確認						○
	ヒメカメノコテントウ	自然飛来							○		○	
	ダンドラテントウ	自然飛来							○			
	トゲバゴマフガムシ	不明					○					
クモ類	アダンソンハエトリ										○	
植物	ミゾコウジュ	導入	NT	VU		開花を確認	○	○	○	○	○	○
	シャジクモ	発芽	VU	VU			○	○	○	○	○	○
	コナギ	発芽						○	○		○	
	ツククサ	発芽						○	○			
	アゼナ	発芽									○	○
	アメリカアゼナ	発芽			○			○	○			
	ニワゼキショウ	発芽			○	2024/5/29に駆除				○		
	エノキグサ	発芽							○			
	トチカガミ	発芽	NT	EX				○	○	○	○	○
	ガマ科の一種	発芽								○	○	○
	フトイ	発芽							○	○	○	○
	イグサ科の一種	発芽									○	○
	サンカクイ	発芽									○	○
	カンガレイ	発芽		VU					○		○	○

植物	カヤツリグサ	発芽							○		○	
	タマガヤツリ	発芽							○			
	ミコシガヤ	発芽		NT						○		
	カヤツリグサ科の一種	発芽					○	○	○	○		
	メヒシバ	発芽							○			

※確認記録 ○:調査で確認 △:聞き取り等で確認

別表1 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの
発芽	ビオトープに導入した土から自然に発芽した植物

別表2 希少性の表記について

表記	カテゴリー名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られない
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの